

舌下神経顔面神経吻合術のための舌下神経の解剖

白澤友裕* 梁井 皎* 宮木孝昌** 坂井建雄**

*順天堂大学医学部形成外科 **順天堂大学医学部第1解剖

聴神経腫瘍などの頭蓋内腫瘍摘出術後や外傷性の顔面神経管骨折などにより顔面神経が損傷を受け、顔面神経麻痺が生じる症例に遭遇することがある。このような顔面神経麻痺の治療方法の一つとして舌下神経顔面神経吻合術がある。われわれの教室では、舌下神経顔面神経吻合術を行う場合に、移行する舌下神経を頭側と尾側で縦に二分割し、その一方を顔面神経と吻合する方法を用いている。この方法は、舌下神経全体を犠牲にせず、舌の機能も温存しようとするものである。

成書によると舌下神経本幹から枝分かれした神経束が舌筋群へ分布する様式は記載されているが、神経束の細かな解剖までは記載されていないようである。現在われわれが行っている研究は、cadaverを用いて舌下神経管を出した後、舌筋群に到るまでの舌下神経の走行を詳細に解剖することである。特に、臨床的に舌下神経を縦に二分割する位置からその末梢部における神経束の走行を解剖学的に検索している(表1)。この検索により、二分割した神経のどちらを顔面神経に移行するかの一つの指針となると考えている。

研究の現段階で、本幹から枝分かれした神経束が舌筋群へ分布するまでの間に頭側から尾側へ、あるいは、尾側から頭側へとその走行を替えている例が確認された。今後さらなる検索と検討の余地があると思わ

表1 舌下神経の解剖と交差の数

	計	右	左
解剖した舌下神経の数	11	6	5
交差の数	6	3	3

表2 交差の方向

	計	右	左
頭側から尾側への交差	4	2	2
尾側から頭側への交差	2	1	1

れるが、現時点までの成果を報告した(表2)。

文献

- 1) Arai, H. & Yanai, A.: Hemihypoglossal-facial nerve anastomosis in treating unilateral facial palsy after acoustic neurinoma resection. *J Neurosurg* **82**: 51-54, 1995
- 2) Conley, J. & Baker, D.C.: Hypoglossal-facial nerve anastomosis for reinnervation of the paralyzed face. *Plast Reconstr Surg* **63**: 63-72, 1979
- 3) Fisch, U.: Cross-face grafting in facial paralysis. *Arch Otolaryngol* **102**: 453-457, 1976
- 4) 橋本卓雄, 脳神経の解剖: 舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経. *JOHNS* **13**: 1633-1638, 1997
- 5) 金子丑之助: 日本人体解剖学(19版), 上巻, pp 555-556, 南山堂, 東京, 2000
- 6) 小川鼎三, 山田英智, 養老孟司: 分担解剖学(11版), 3巻, pp 162-165, 金原出版, 東京, 1982
- 7) 瀬野久和: 舌下神経縦2分割による舌, 神経の変化: 犬舌下神経縦2分割による組織学的検索. *日形会誌* **20**: 173-178, 2000